

成績評価における客観的な指標について

1. 客観的な指標

本学部では、成績評価において、客観的な指標として、令和元年度以前入学生は成績に基づく順位（席次）、令和2年度入学生からは順位（席次）及びGPAを設定し、各学科・各学年において、適宜活用しています。

2. 順位・GPAの算出方法

順位は、必修科目（実習を除く）の成績評価を点数化（100点満点）し、合計点の平均を算出し、平均点に基づき順位を決定します。

GPAは、各授業科目の成績を5段階のグレード「S（秀）、A（優）、B（良）C（可）、F（不可）」で評価し、各成績評価段階（評点）に4～0のGPを付与して、1単位あたりの評定平均値（GPA）を算出します。また、GPAは当該学期GPA、年間GPA及び累積GPAの3種類を算出しています。

(1) 当該学期GPAの計算式

$$\frac{\text{（当該学期に評価を受けた科目のGP} \times \text{その科目の単位数）の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた科目の総単位数（不可、欠席、資格無の単位数を含む）}}$$

(2) 年間GPAの計算式

$$\frac{\text{（当該学年に評価を受けた科目のGP} \times \text{その科目の単位数）の合計}}{\text{当該学年に評価を受けた科目の総単位数（不可、欠席、資格無の単位数を含む）}}$$

(3) 累積GPAの計算式

$$\frac{\text{（評価を受けた科目のGP} \times \text{その科目の単位数）の合計}}{\text{評価を受けた科目の総単位数（不可、欠席、資格無の単位数を含む）}}$$

3. 順位・GPAの適切な活用状況

令和2年度以降の入学生に対し、学期GPAが0.750以下の場合、面談にて学修指導を行います。また、学期GPAが2期連続で0.750以下の場合、退学を勧告する場合があります。さらに、GPAは各学年の進級条件として活用され、必修科目の未修得単位が4単位以内を満たしている

ない場合でも、未修得単位が6単位以内であり、かつGPAの数値が基準値（年間GPA1.500以上）を上回っていれば進級としています。

学生本人と保証人には、順位（令和2年度入学生より合わせてGPA）が通知されており、学年における自分の位置を理解させています。

4. 成績分布状況の把握

年度末に集計した順位をもとに度数分布表を作成し、客観的かつ適正に成績評価がされていることを教授会で確認しています。

各学生の順位（令和2年度入学生より合わせてGPA）は、関係者に共有されており、学生に対する指導に用いられています。成績が芳しくない学生には、組担任または配属教室責任者が事情聴取によって状況把握を行うとともに、学習への専念を促しています。

以上